



こうしてアップにするとあれ何?と思うでしょう? この時季  
甘くまさしく馥郁たる香りで心和ませてくれる金木犀の花です

# 楽音

佛歴二五六五 西歴二〇二二  
令和四年十月号

発行 楽音寺 住職 内藤睦雄  
電話 090-3140-3931 (携帯)

0553-47-3475 (お寺)

FAX 0553-47-3495 (只今使用不可)  
寺庭 090-8643-0852 (藤井牧子)

十月 四日 東京慈恵院本堂落慶法要

六・七日 北海道教区拡充大会

十二〜十四日 全国奉詠本山大会

九・二十三日 坐禅会 朝六時三十分

十一月十・十一日 信越教区拡充大会

十三日 楽音寺お施餓鬼法要

十九・二十日 本山御詠歌講習

二十四・二十五日 大分萬寿寺講習会

二十六日 山梨交響楽団

石和スコレーコンサート

十三・二十七日坐禅会 朝六時三十分

# 今月の掲示板

## 松茸の

## 香も人によります



先日お弁当を頂いたとき、小袋に「松茸のお吸い物」と書いてあった。早速湯を注いで飲んでみたら『ワー松茸だ!』と思わず喜んだ。そばにいる家族は『科学的に作ったものだよ。そんなんで喜ぶのはお父さんだけ』え!と思ったが、あんたたちはかわいそうなお人だよ、とつくづく思ってしまった。知識も大事、良いものや本物を見たり聞いたり味わったりすることも大事。いやあ私だって季節の物、今の「松茸尽くし」なんていうツアーに参加して大いに楽しんだ経験もある。だから本物の味は知っているつもり。それでも

お弁当についていたあの粉のお吸い物は美味しかった。幸せだった。そこがいいのではないだろうか。美味しいものを頂くことも大事だが、美味しくいただくことこそ、心と体の健康のもとではないかと思う。今回の俳句の結句にも『こそ』とあるように。

## 臨濟寺専門道場へ掛搭

臨濟寺道場玄関の上がり框で斜めに座り込み、不自然な格好で入門お願いの姿は二日目。初日の昨日は、こんな習慣は、いったいいつから繰り返しているのかしらという思いだったが、ずいぶん落ち着いた。朝粥も昼食も言われることは同じ、音を立てるな、あなたはどちらから? などという質問もNG。なんと道場では禅堂・食堂(じきどう)・浴室

の三か所は『三黙堂』と行って黙して語らず、  
個々の修行に集中しながらその場所ですす  
べきことを全うするわけである。禅堂という  
坐を組むお堂はわかるとして、食事やみんな  
と入る風呂はつい口数が多くなる、それがま  
た楽しいのだがそれがいけない。後で思うに  
自分で饒舌になり過ぎていないだろうか、と  
反省し思うきっかけにはなる。

一昨年辺りからコロナ騒ぎのため巷には  
「黙食」「黙浴」「黙買い」のような文字が目  
立つが、「黙禱」や「黙礼」という言葉があ  
るからか皆それなりに受け入れている。「黙」  
の字を見ると道場を懐かしく思い出される。  
道場ではこれから山のような規則が迫っ  
てくるかと暗い気持ちになったが、一日一日、  
と思ひ直した二日目であった。

## 無事は貴人

母がお茶を教えていた当時、ある日上気し  
た顔で私らの前で「大徳の老師様のお軸を買  
ったのよ」と、彼女としてはこれぞ茶掛けと  
いうものを手に入れた喜び、しかもお茶のメ  
ッカ大徳寺の名の、この時はお寺の在所「紫  
野」が書かれていた、いわゆる茶道具の一つ  
として嬉しかったに違いない。そのお軸の文  
字が定番の『無事は貴人』だった。

何よりも無事の日が送れることは尊く、そ  
の毎日が続けられる人こそ貴い人なのだ。解  
釈されてこの句をありがたがったのであるう  
か。だが、出典の臨濟録に書かれている本来  
の意味合いは少々異なる。

無事はれ貴人、但だ造作すること莫れ、  
祇だ是れ平常なり。你、外に向かつて傍  
家に求過して、脚手を覓めんと擬す。錯

り了れり (臨濟録)

ここでいう貴人とは、貴族の貴ではなく、真に貴ぶべき人、すなわち道の完成をなす仏であり、また一大事の悟りであり、大安心を得たる人を指す言葉である。また無事とは、いわゆる平穩無事の無事ではなく、まして何事もなく平々凡々の無事でもない。「ただ、造作すること莫れ」とは、あれこれと巡らせ、徒に善だ悪だ、やれ悟りだ迷いだと騒ぎまわること、臨濟禪師は戒められる。平常のそのまがよいのであって、どうしても外に向かつて道を求め、脇見をしては悟りの手がかりを求めるとなことは慎むべきと「求心歌(や)む処、即ち無事」と臨濟禪師はいわれる。

白隠禪師も「衆生本来仏なり」と言い「遠く求むるはかなさよ」とうたわれるが如く、私達は皆生まれながらにして仏性をいただいた

ている。そのことを抜きにして他に仏や悟りを身につけようとすることは愚かなこと。つまり、何の造作なく「衆生本来仏なり」に徹してこそ、無事は貴人なりと言えるのである。

(朝日カルチャー「禅語教室」を参考にしました)



八月の末から庫裏の工事が始まりました。写真は奥の倉庫で私の書齋にしたくなるほど広くて明るい建物にきつとなります。この倉庫を先に完成させ、本堂内外にあるコンテナなどのお宝を順次収納する予定です。今後も楽しみにしてください。

写真は十月二日現在